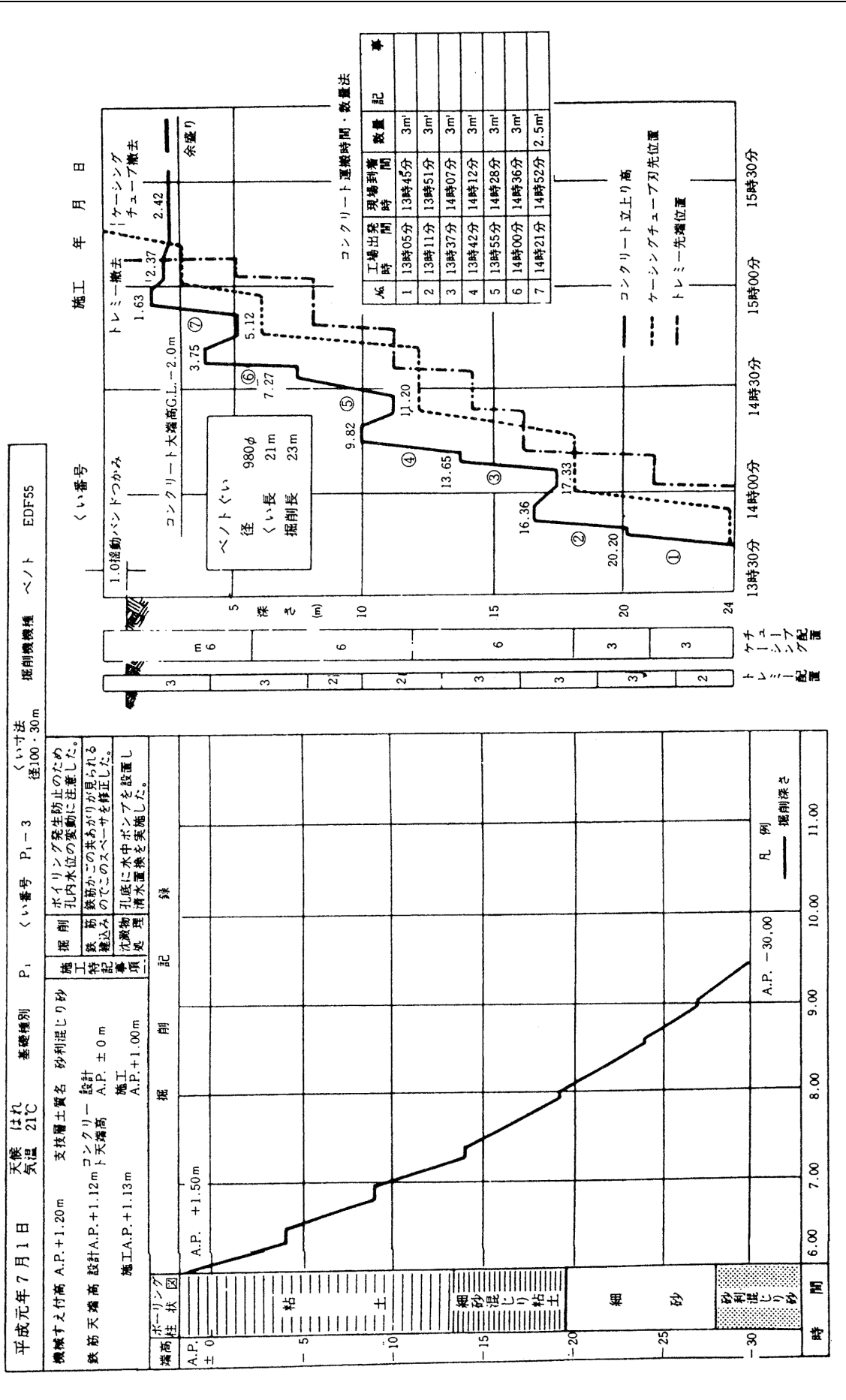


# 場所打ち杭管理記録図(例)

測定者







井筒  
基礎  
施工管理図(例)

基礎番号	第○号橋脚	形式形状	円形	形状寸法		測定者	特記事項		
				φ8.00×20.0m	位置のずれ				
橋軸 施工値	すえ付地盤高H =100.00	σ=+10	天端H 100,000	位置のずれ	φ8.00×20.0m	中埋材	特記事項 1. 5.0~7.0でポンプ(φ160)3台使用(80m <sup>3</sup> /H) 2. 18.5m沈下が止まったので100t載荷する。		
		σ=±0	σ +25	月日				X-X	切込砂利 (無規格)
		σ=+5	σ -15	天端				Y-Y	
		σ=+5	σ +10					X-X	
角	100,005	σ +0		Y-Y	Y-Y				
深度	標高	ボーグ柱状	測	沈設記録		中埋記録			
±0	1000.000	砂ン混 質ルじり 土	実 柱 状 図	月日 日数		月日 日数			
5	95.000	礫混じり粘土		5/1 0	5/1 0	20	60		
10	90.000	硬岩		6/1 20	6/1 20	20	10		
15	85.000			6/6 10	6/6 10	20	10		
20	80.000			6/20 10	6/20 10	20	10		
25				7/1 10	7/1 10	20	10		
30				7/1 10	7/1 10	20	10		

Figure 1: Construction Management Diagram (Example). The diagram plots depth (±0 to 30m) against time (5/1 to 9/3). It shows concrete pouring stages (1 to 5), curing periods (H-4.5, H-5.0, H-5.5), and construction activities like 'ふた打設' and '鉄筋組立'.

# P C グ ラ ウ ト 試 験

年 月 日
天候

試験番号 \_\_\_\_\_  
 試験場所 \_\_\_\_\_  
 測定開始時刻 午前・後 時 分 \_\_\_\_\_  
 測定終了時刻 午前・後 時 分 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

気 温 \_\_\_\_\_ °C  
 セメント温度 \_\_\_\_\_ °C  
 使用水温 \_\_\_\_\_ °C  
 グラウト温度 \_\_\_\_\_ °C

1. 材 料

材 料	種 類	製造業者
セメント		
フライアッシュ		
セメント分散剤		
A L 粉 末		

2. 練混ぜ

ミキサ \_\_\_\_\_  
 ミキサの回転数 \_\_\_\_\_ 回/分  
 練混ぜ時間 \_\_\_\_\_ 分  
 材料投入時間 \_\_\_\_\_ 分 秒

3. バッチ配合

W/C	C	W	Pozz	AL	AL/C
(%)	(kg)	(kg)	(g)	(g)	(%)

4. 試 験

練混ぜ後放置時間	分
	秒
流下時間	秒
	秒

番 号	直後の読み (cc)	3時間経過後 の読み		20時間以上 経過後の読み		ブリージング率		膨張率 (%)	
		水 (cc)	グラウト (cc)	水 (cc)	グラウト (cc)	3時間後 (%)	20時間後 (%)	3時間後	20時間 以上

圧 縮 強 度 試 験					圧 縮 強 度 試 験				
番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備考	番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備考
平均					平均				



プレストレッシング管理表(2)

けた番号	1	2	3	4	5	6	7
ケール番号	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥
摩擦係数(μ)							
μの平均値( $\bar{\mu}$ )							
μの範囲(R)							

けた番号	8	9	10	11	12	13	14
ケール番号	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥
摩擦係数(μ)							
μの平均値( $\bar{\mu}$ )							
μの範囲(R)							

0.4														
$\bar{\mu}$ 0.2														
0														
ケータ No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0.4														
R 0.2														
0														

## 高力ボルト締付け検査記録票 (例)

検査年月日	年月日	測定者				
高力ボルトの種類	F10T	締付けボルト軸力				
インパクトレンチ	トルク係数値およびトルク値の算出試験 (ボルト各サイズごと)					
ボルト軸力計						
トルクレンチ	トルク係数値					
柄のタワミによる型 ダイヤル目盛型						
インパクトレンチの検定						
	午前 (作業開始前)	午後 (作業開始前)	作業完了			
測定軸力	6,180		6,200			
セットした軸力	6,100					
箇所	検査本数	所用トルク (T)	測定トルクの値 (N・m)			
桁 F-1 (U. Fling)	4本 24本中	61	2～ロ	3～イ	4～ヘ	6～ニ
			62	64	62	64
桁 " (Web : L)	5本 48本中	61	10～リ	10～ル	9～タ	9～ク
			61	64	65	62
桁 " (Web : R)	5本 48本中	61	12～チ	11～カ	11～ラ	12～ワ
			61	65	62	62
桁 " (L. Fling)	4本 24本中	61	16～ケ	16～ア	18～コ	16～テ
			64	64	61	62
		合計	252	316	311	251
		平均	63	63.2	62.2	62.7
		誤差	3.3%	3.6	2.0	2.8
		許容トルク値	Ta = T × (1 ± 0.10)			
		略図及び名称				

キャンバー測定記録表

工程	測定箇所	測 定 者		
		架設後	地覆・高欄	者
計画高 (製作時)				
鋼げた 架設 完了時	計画高			
	施工高			
	差			
床 打設 完了時	計画高			
	施工高			
	差			
高 地 完了時	計画高			
	施工高			
	差			
鋪 装 完了時	測標高			
	計画高			
	施工高			
差				

注 地覆施工時、地覆部に接点数の1/2程度の数の測標を設置するものとする。  
測標はさびにくい材料によるものとし、舗装完了時の測標高を記録するものとする。

様 式 (40)

## 膜 厚 測 定 記 録

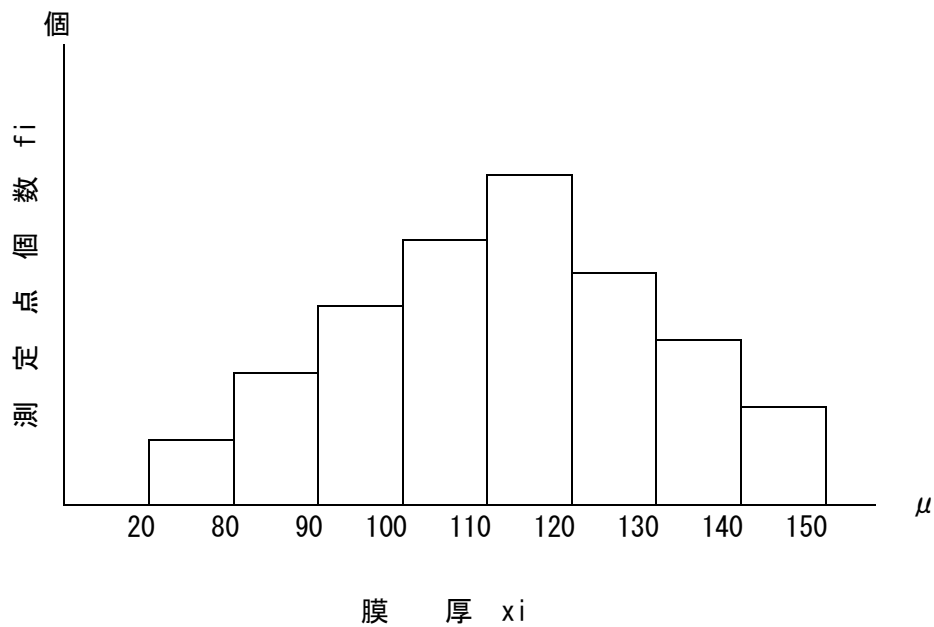
塗 装 系						系	測 定 日 時	年 月 日		
測 定 時 間	工 場 後	現 場 前	現 場 後			測 定 者				
構 造 名										
測定位置	測定値	1	2	3	4	5	平均 Xi	平 方 根		備 考
							$\bar{X} - x_i$	$(\bar{X} - x_i)^2$		
G 1 - 1	A									
	B									
	C									
	D									
	E									
	F									
	G									
	H									
	I									
	J									
	K									
	L									
	M									
	N									
合 計								合 計		
平 均 値 $\bar{X} =$										

平均値	$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n x_i$	
標準偏差	$S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{X})^2}$	

## 塗膜厚の度数分布表

測定者 \_\_\_\_\_

膜厚 ( $\mu$ ) $x_i$	測定点個数 $f_i$	膜厚 ( $\mu$ ) $x_i$	測定点個数 $f_i$
20~29		110~119	
80~89		120~129	
90~99		130~139	
100~109		140~149	
		合 計	



様式 (42) 欠番  
様式 (43) 欠番  
様式 (44) 欠番  
様式 (45) 欠番  
様式 (46) 欠番  
様式 (47) 欠番  
様式 (48) 欠番  
様式 (49) 欠番  
様式 (50) 欠番  
様式 (51) 欠番  
様式 (52) 欠番





## 工事写真帳 冊

\_\_\_\_\_ 振興局      \_\_\_\_\_ 出張所

( 測点 S P      ~ S P      )

アルバムNo.	工 種	記 事

- 注 1. 標題には施工年度、工事名を記入し、No. の内の ……と番号をつけ、当冊に収められている測点 SP を ( ) 内に記入する。
2. 記事欄は撮影補足説明、整理及び保存番号、既済検査記録等主要な説明事項を記入する。
3. 本様式は、写真帳の内紙に設けるものとする。



様式 (57) 欠 番

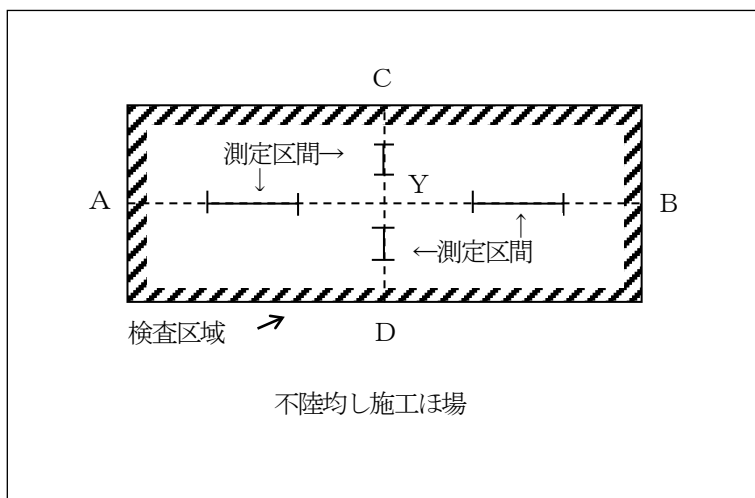
様式 (58) 欠 番

様式 (59)

### 起伏修正工 (I) における不陸均しの測定基準

- (1) 施工ほ場に対しほぼ  $1/4$  に相当する検査区域を設ける。
- (2) 検査区域のほぼ中央部に点 Y をとり、その Y を通って直角に交わる AB 及び CD を設定する。
- (3) AY、BY、CY、DY 各測定線の延長の  $1/4$  以上 (最低 20m) の長さの測定区間を測定線のほぼ中央に設定して、その区間を 1 m 区間で水準測量する。

(例)



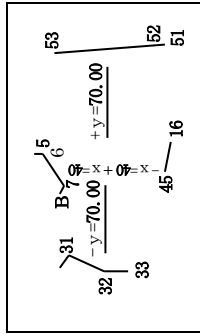
測定例 AY = 100m → 測定 |——| = 25m

CY = 40m → 測定 |——| = 20m

# 起伏修正頻度計算書

ほ場番号 \_\_\_\_\_  
 受益者名簿 \_\_\_\_\_  
 面積 ha \_\_\_\_\_  
 区分 + x タンペン \_\_\_\_\_

測線	起伏頻度			比率		
	cm 0~4	cm 5以上	計	cm 0~4	cm 5以上	計
長辺	110	30	140	79%	21%	100%
短辺	62	18	80	78%	22%	100%
計	172	48	220	78%	22%	100%



測点	起伏頻度																				比率		(備考)				
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	cm 0~4		cm 5以上	計		
地盤高 (m)	42.08	42.06	42.01	41.98	41.91	41.80	41.73	41.73	41.68	41.51	41.49	41.41	41.39	41.36	41.30	41.28	41.26	41.21	41.19	41.14	41.10	41.1	41.14	41.14	0		
平均地盤高 (Hm)	41.83m																				41.28m						
平均勾配 (θ°)	$\theta^\circ = \tan^{-1} \frac{\Delta H}{5.00} 2.9$																				$\theta^\circ = \tan^{-1} \frac{\Delta H}{10.00} 4.5$						
(イ)地盤高差 (hcm)	100sinθ = 5 cm																				100sinθ = 8 cm						
(ロ)補正值 (cm)	2	5	3	7	2	9	7	5	17	2	8	2	3	6	2	2	2	5	2	5	4	0~4	5以上	計	0~4	5以上	計
起伏高 (cm)	-3	0	-2	2	-3	4	2	0		-3	3	-3	-2	1	-3							-6	-3	-4			
(イ)-(ロ)									12																		
21以上																											

測点	起伏頻度																				比率		(備考)				
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	cm 0~4		cm 5以上	計		
地盤高 (m)	41.10	41.08	40.90	40.81	40.62	40.51	40.40	40.19	40.05	39.91	39.81	39.73	39.63	39.51	39.48	39.33	39.20	39.08	38.98	38.95	38.90	38.9	38.95	38.95	0		
平均地盤高 (Hm)	40.49m																				39.33m						
平均勾配 (θ°)	$\theta^\circ = \tan^{-1} \frac{\Delta H}{10.00} 4.5$																				$\theta^\circ = \tan^{-1} \frac{\Delta H}{10.00} 6.6$						
(イ)地盤高差 (hcm)	100sinθ = 8 cm																				100sinθ = 9 cm						
(ロ)補正值 (cm)	2	18	9	19	11	11	21	14	14	14	10	3	10	12	3	15	13	12	10	3	5	0~4	5以上	計	0~4	5以上	計
起伏高 (cm)				1		3	0		3	3	-1	-3	-1		4	4	4	3	1			-4					
(イ)-(ロ)								10							-8												
21以上																											

様式 (60)

さく井工事柱状図

工事名			静水位	施工者	担当	
所在地			動水位	着工	試験機	年月日
				完工	ポンプ	年月日
総深度		孔径	揚水量	日数	原動機	

掘削 月	深度	m	地質	層	記号	名称	色	硬軟	岩芯長	m	排水色 (温)	静水位 (湧水量)	孔底温 (孔口温)	掘さく径	mm	ケーシング	記事	井側管仕上	図表	水位	2	0	-2	-4	-6	-8
	温度	18°C																		20	30	40	50			
日	度	m																		水量	0	50	100	150		

